

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和3年 2月 22日

事業所名 戸次なごみ園

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%			子どもの人数に応じて個室等を使い分けている。	利用人数や特性に応じて、お互いの良好な関係を保つようにする。
	2	職員の配置数は適切である	100%			基準より多めの職員配置にしている。	職員の配置から、より質の向上を目指し、しっかりと子どもたち一人一人に関わっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%			段差がない構造にしている。車いす用のトイレや各所に手すりを整備している。	柱の角など危険個所には、安全ガードを施しているが、子どもがはがすことがあるため、その都度確認して対処する。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100%			その日のミーティングや職員会議	その日にいない職員に対して、検討した内容を詳しく伝えていくことを徹底する。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%			行事の後アンケートをとり、次回につなげようとしている。	自己評価表アンケートで得た意見を踏まえて検討し、できるだけ迅速に前向きに検討し、対処していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			集計してホームページや事業所内掲示で公表している。	園だよりで、公表結果をお知らせして、よりよい運営を築いていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%			法人全体で第三者委員会を設置している。	第三者による外部評価は、実地指導を受けた内容を全職員で十分検討し、改善する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%			法人全体の研修以外に、事業所内研修も行っている。	事業所内の研修だけにとどまらず、外部研修にも意識して、当事業所にとって必要な内容の研修をできる限り受講できるようにしていく。
適切 な 支 援 の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%			保護者からの聞き取りをして、取り組み計画を作成している。	ニーズや課題を整理・分析をして、具体的に取り組む放課後等デイサービス計画を明確に伝えていくようにする。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	84%	16%		個に応じて、保育経過記録表などのアセスメントツールを利用しながら取り組んでいる。	保育経過5領域記録表の実践に取り組み、その子の成長を検証していく。また、療育センターなどで検査した発達検査（WISCなど）の結果も踏まえて、今後の支援に取り組んでいく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%			毎月の職員会議で案を出し合っ、次月の活動プログラムを設定している。	今後、マンネリにならないようにいろいろな情報や知識を駆使して、季節感や子どもの個性や能力に応じて内容を展開していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			毎年同じ活動プログラムにならないように検証しながら取り組んでいる。	子どもの特性に視点を向け、子どもたちからの意見にも傾聴し、充実して満足できる活動プログラムを設定していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%			長期休暇時にしかできないことを楽しめるようにしている。	平日と休業日での子どもたちの様子や疲労感を考慮しながら、課題を設定していくようにする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%			個別活動と集団活動の組み合わせを子どもの特性に応じて計画している。	集団活動では、季節感を感じる活動を取り入れているが、子どもの疲労感など状況を踏まえて活動の修正を図ることも工夫していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%			毎日、その日のリーダーを中心に活動内容や役割を確認している。また、毎日倫理綱領を唱和して、支援の向上に努めている。	想定外の動きや内容に対応できるよう、話し合いで想定する幅を広げて検討するようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	83%	17%		その日だけにとどまらず、次の日も支援の振り返りをして対応するようにしている。	なるべくその日の内容を振り返るようにしているが、送迎時間や会議等の関係でできない時があるため、必要に応じて少人数でも必ず確認するようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			毎日必ず全員の記録をとり、ファイルに綴り、素早く検証できるようにしている。	支援記録は必ず記入するようにしているが、記録の仕方について全職員で確認し、よりわかりやすい記録を作成して支援の検証をしている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%			6か月ごとの見直し（モニタリング）を行い、子どもの状況に応じて計画を見直している。	子どもの成長に合わせて、今何がその子に必要なのかを全職員で検証し、対応を検討していく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%			毎月の活動内容は、必ずガイドラインの基本活動を意識して検討している。	ガイドラインの基本活動は、全職員で読んで踏まえているが、地域交流の機会の提供に工夫が必要と考えている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%			児童発達管理責任者が原則出席するようにしているが、状況に応じて、療育現場で主に関わっている職員が出席するような体制をとっている。	状況に応じて、職員が参画しているが、できる限り情報提供内容を職員全員から聞き取りして、取り組むように工夫する。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			送迎時や電話連絡等で必ず確認するようにしている。また、送迎時のトラブルについても適宜報告・連絡を管理者にするようにしている。また、保育所等訪問支援を通して、情報共有を行っている。	保育所等訪問支援を利用している子ども以外は、情報不足な時があるため、学校との情報共有、特に担任との連絡は今後も密にしていきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	67%	33%		アセスメントシートに利用児の状況を記入してもらい、必要に応じて主治医と連携をとるように保護者とも確認するような体制をとっている。	現在、医療的ケアが必要な子どもは契約していないが、利用の際には当法人の看護師チームにも相談しながら取り組みたい。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	83%	17%		各関係機関と就学前支援会議等で、情報を共有して支援につなげている。	当事業所の児童発達支援事業では、その子の情報は多くあるが、他事業所等からの就学前情報をもう少し詳しく情報共有できるようにしていく。また、職員にも情報を徹底していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83%	17%		卒業前の支援会議では、今まで取り組んできた支援内容を成果とともに障害福祉サービス事業所等に伝えていく。	学校を卒業し、障害福祉サービス事業所へ移行したケースが、今までに3件しかないが、今後も取り組んだ支援内容等の情報を適切丁寧に提供していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%			事業所内では、SVの助言を受けたり、専門機関の研修を当法人全体研修で受けている。	研修計画はあるものの、もう少し幅広い内容の研修を受けるように、日程等に工夫をしながら取り組んでいく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	33%	34%	法人祭りなどで地域の児童館の子どもと触れ合う機会を設定した。	今現在コロナウイルス感染防止の観点から、交流はできていないが、再開される時は、何らかの形で交流ができるようにしていく。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	17%	50%	33%	案内のある自立支援協議会等の研修には、参加するようにしている。	現段階では、地域の自立支援協議会会議には参加できていないが、会議に参加している当法人他事業所から福祉情報を得るようにしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	84%	16%		送迎時や個別面談等を通して、子どもの状況について共通理解を持つようにしている。	送迎時に詳しく伝えられない時には、後から電話連絡をするなど、状況を考慮しながら共通理解を図っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%			保護者も参加できる研修を紹介したり、臨床心理士との面談につなげた見学者に対しても丁寧な対応をしている。	ペアレント・トレーニングやピアカウンセリングを視野に保護者会開催などに取り組んでいるが、ペアプログラムも職員が学んでいるため、今後は活かしていくように取り組む。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	84%	16%		利用契約時に、書面にて説明し、同意を得るように努めている。また、見学者に対しても丁寧な対応をしている。	運営規程や利用者負担等については変更があれば伝えるようにしているが、支援の内容については、更に詳しく伝えるようにしていきたい。保護者からの質問等にも丁寧に説明していきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	84%	16%		児童発達管理責任者や主任保育士を中心に、保護者の相談に応じ、保護者の不安を軽減できるように取り組んでいる。	子育ての悩みについては、こちらで受け止め切れていないこともあるため、必要に応じて、臨床心理士との面談を設定していくようにする。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	50%	17%	毎年、保護者会を開催し、保護者同士の交流が図れるようにしている。	今年度は、コロナ感染防止のため、保護者会の開催を見合わせているが、状況に応じて、開催していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			苦情解決の受付等に関する説明は利用契約時に行い、対応の体制は整えている。また、当法人他事業所とも連携して、苦情についての検討をしている。	常に保護者の意見に対して、真摯な姿勢で対応し、より質の高い支援を行うため、密に連絡をとるようにしていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%			毎月、園便りを発行し、戸次なごみ園での過ごし方や活動内容の様子を伝えるようにしている。	毎月発行はしているが、より詳しく、多くの子どもたちの様子が伝えられるように工夫していきたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	35	個人情報に十分注意している	100%			個人情報の取り扱いについては、利用契約時に同意書を交わし、その都度保護者に確認しながら取り組むようにしている。また、書類は施錠付きの棚に置いている。	個人情報となる内容に相当するかを全職員で検討しながら今後も十分注意していきたいと考える。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			利用児の特性や必要に応じて、絵カードやスケジュール表、ホワイトボード等を活用している。	保護者との意思の疎通や情報伝達に関しては、電話や面談で行っているが、より詳細な事についての内容には、より丁寧な対応をしていきたいと考える。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	50%	33%	17%	地域交流祭として、法人祭りを毎年開催している。	戸次なごみ園自体に地域住民を招待するところまではできていないが、今後交流会などの行事を通して工夫していきたいと考える。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%			各マニュアルについては、保護者会で周知したり、利用開始時に説明したりしている。	各マニュアルの様子を保護者会や利用契約時に周知するようにしているが、まだまだ不十分のため工夫して取り組みたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			避難訓練を定期的に行っている。子どもの特性に応じて、実際に避難しなくても紙芝居等で意識付けている。	避難訓練等については、定期的に取り組んでいるが、子どもによっては嫌な体験として負担をかけてしまうことがあるため、配慮して工夫していきたい。また、職員は、当法人災害訓練研修にも参加して、必要な知識と技術を身につけるようにしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%			虐待防止チェックシートを定期的に全職員に記入してもらい、日常の支援の振り返りに取り組んでいる。また、法人内研修で、毎年虐待防止研修会も開催している。	各職員の虐待防止チェックシートの結果を踏まえて、職員会議で支援の見直しをより密にするようにしていきたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%			安全面での配慮について、放課後等デイサービス計画書に記載し、内容についての説明をし、同意を得るようにしている。やむを得ず身体拘束を実施した場合、記録をとり改善対応策を検討するようにしている。	身体拘束についての考え方（3要件など）については、常に職員間で確認しているが、どのように対応するのがよいか今後もより慎重に検討していくようにする。
		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%			食物アレルギーに関しては、医師の指示書は特になく、ケースが多いが、保護者と情報共有し、主治医の指示に応じて対応するようにしている。	常に、食べ物を提供する時は、食物アレルギーがある子どもについて確認するようにしているが、食材の成分に今後も注意しながら取り組みたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			業務日誌にヒヤリハット事例を記入し、ミーティングで情報確認・共有をするようにしている。	ヒヤリハットがあった場合、報告書を提出してもらおうが、会議での振り返りをより綿密にしていきたい。